

## 会 議 録

会議の名称	第8回 戸田市自治基本条例推進委員会
開催日時	令和3年7月26日(月) 午後7時00分～8時30分
開催場所	戸田市役所5階 大会議室AB
委員氏名	<p>◎■ 横山 誠②    ○□ 雨木 恵美①    ■ 柴田 忠雄②</p> <p>□ 山田 博満②    □ 細井 明美①    □ 岩本 恭幸②</p> <p>□ 播 義也②    □ 阿部 昌巳①    □ 溝上 西二①</p> <p>■ 飯田 峻平①    □ 小野塚 加代②    □ 林 公子①</p> <p>□ そごう 拓也②    ■ 酒井 郁郎①    □ 北川 絢子①</p> <p>□ 大沢 崇介②    □ 松下 啓一    ■ 大山 宣治②</p> <p style="text-align: right;">( ◎委員長    ○副委員長 )</p> <p style="text-align: right;">( □出席    ■欠席 )</p> <p style="text-align: right;">( ①諮問1    ②諮問2 )</p>
説明のために出席した者等	
事務局他	市民生活部協働推進課 遠藤課長、町田主幹、川原副主幹、水巻主任、小野主事
議 題	(1) 市長諮問内容について (2) その他
会議の経過	別紙のとおり
会議資料	別紙のとおり

(会議の経過) 7/26 第8回自治基本条例推進委員会 会議録

発言者	議題・発言内容・決定事項
事務局	<p>1 開会</p> <p>2 挨拶</p> <p>3 議題</p> <p><b>議題(1) 市長諮問内容について</b> 資料に基づき説明。 本日は、諮問内容ごとに2班に分かれグループディスカッション形式にて、議論をお願いしたい。</p> <p>○市長諮問内容1について、雨木副委員をリーダーとして以下の通り実施した。</p>
副委員長	<p>市長諮問内容1「より多くの市民に条例の理解を促進し、市民、議会、行政3者の協働によるまちづくりを進めていくための手法について意見を伺います」について、検討していく。</p> <p>ア、イ、ウとあるが、自由に意見を頂いても構わない。</p> <p>新しいことだけではなく、今までやってきた事をどう思うかや、皆さんの活動の中での体験談でも構わないので、ご意見を頂ければと思う。</p> <p>また、どのようなターゲットに、どのような手法で仲間を広めていくのか、普及させていくのにどういう活動をすれば良いのか。</p> <p>若い世代、転入者、このような会議に参加できない方を、どうやって取り込んでいくのか。</p>
委員	<p>活動されている方は十分に分かっていると思うが、それ以外の方には、今の時代に合ったSNSでの告知。</p>
事務局	<p>この前のアンケートの結果で、機会があればやりたいという人もいたので、掘り起こせば仲間になりそうな貴重な人材だと思う。</p>
委員	<p>そういう人たちに連絡を取ることはできるのか。</p>

事務局	メールアドレスを書き込んでいる方には、可能である。
委員	そういうところから人材を掘り起こして、芋づる式に広げていく。 SNSやアンケート等に回答してくれた人に対して、こういう会議があるよ、とか、こういう事をするので参加しませんか、等の情報を流すことが一番良いことかと思う。 まずは参加してもらって、意識をしてもらう。そこからまた広げてもらう。
委員	市民の皆さんは、コロナ禍ということもあって、戸田市のHPを結構見ている。HPで発信するのは良いと思う。 広報だと見なかったり、見落としたりする。
委員	まちの情報に一番興味があるのは、やはり初めて来たとき、転入してきた時だと思う。引っ越してきたタイミングで、何かできると、興味を持ってもらえると思う。
委員	戸田市に引っ越してきた時に渡す、ゴミの分別表などのセットの中に活動の紹介などを冊子に入れられると良い。
委員	ゴミの分別表のところに枠をもらって、こういう活動があることや、困ったら連絡して下さい等あれば、興味をもってもらえるかもしれない。
委員	HPやSNSも大切だけれども、市役所に来た時に、掲示板のようところに、紙ベースで貼ってあれば、知ってもらえるのでは。
副委員長	電光掲示板もある。
委員	SNSはやはり対象が若い方になる。若い方にどんどん発信していくのは良いと思うが、やはりそこから取り残されてしまう方々へのアプローチも必要だと思う。そういう方々も町会長などメインで戸田市を担う存在。
委員	確かに、年配の方達はSNSなどが苦手な方が多いと思うので、そう

	<p>いう方達の目に入るような媒体も使った方が良い。</p>
委員	<p>今、戸田市では町会に加入されている世帯が 55～56 パーセント。町会員以外の方は広報が入らないので、SNS 等でしか広報を見ることができない。</p> <p>問題なのは、町会員以外の人たちをどういう風に取り込むかというところ。SNS や HP というのは、若い人には良いが、我々には無理。「どうやって伝えるか」というのは、我々にとっても悩みである。</p> <p>また、町会員の高齢化も課題。助けてほしい、助けましょうという制度（※おねがい会員、まかせて会員）があるが、助けるよという人もどんどん高齢化していて、ボランティアの担い手もない。</p>
委員	<p>コロナ禍で家に閉じこもっている高齢者が多くなっている。そういう方にも外に出てもらえるような取り組みができれば良いと思う。</p>
副委員長	<p>今までやってきたフォーラムだとか、出前講座については、今後どうしたら良いと思うか。</p> <p>新しいことだけではなく、これまでやってきた事を今後どうするのかという問題もあると思う。コロナ禍で大勢で集まることはできないが、これからも続けていくのか、新しく変えていくのか。</p>
委員	<p>フォーラムはすごくよかったと思う。</p> <p>ただ、開催してその場で終わり、あー良かった、ではなく、次に繋がられるようなフォーラムが良いと思う。</p>
副委員長	<p>フォーラムには、町会長や、既に何か活動されている方もいれば、無作為で招待状を出したのを見て来てくださったり、パンフレットを見て来てくださる方もいた。</p>
委員	<p>そういう方が、次に繋がるような仕組みにすれば、広がっていくと思う。</p>
委員	<p>フォーラムに来て頂いたときに、可能であれば、メールアドレスや連絡先をお伺いして、次に何かあるときにお知らせできれば良い。</p>
委員	<p>今回は、来てもらって終わりになっているので、人集めで終わってし</p>

	まっている。次回は来てもらったら、「次はこういう企画をやってみませんか」のような声掛けをするのも良いと思う。
副委員長	参加した時は良いが、その後発信したりはしなかったのも、その場で終わってしまっている。
委員	そのフォーラムに参加された方に、連絡先を頂ければ、次はフォーラムの準備段階から、意見をもらえたら、もっとみんなが参加しやすいものができるのではないかと。これまでは内部だけで考えてしまっていたので。
委員	テーマを考えるにしても、一般の方の意見を聞いて、それについて話し合う方が良いかもしれない。
委員	ここが母体になって、そういうお手伝いをしたいという人たちを集めて、フォーラム実行委員会をつくるのも良いかもしれない。
委員	やはり、その中でも、市役所の人、市民の方、議員の方が3者いる方が良い。
委員	議員と市職員は、声をかければ出てきてくれるが、やはり市民の人に参加してもらうにはどうしたら良いか。 実行委員が何人かいれば、そこからまた声をかけてもらって広げていけばよいと思う。
副委員長	出前講座はどうか。 コロナ禍ということもあるので、フォーラムよりこちらの方が手軽かと思うが、いかがか。
委員	出前講座を開くのは良いけれども、得手不得手もあるし、発信する側の人々の準備は大変だと思う。経緯を知っていて発信できる人は良いが、一人に負担がかかってしまう。
副委員長	何か違う形の方が良いか。
副委員長	子どもには小学校に漫画パンフレットの冊子を配っている。

	まんがパンフレットを6年生に。まちづくりの勉強をするので、そのタイミングで配布している。
委員	まちづくりに参加するのは簡単なのだということを、授業などで漫画パンフレットを使ってもらって、教えてもらう。
副委員長	漫画は子どもたちでも分かるのだから、大人が見ても分かりやすいと思う。子どもだけではなく外国の方とかも良いのではないか。
委員	大人でも字ばかりだと読みづらいし、漫画の方が絵もあるし文言も柔らかいので分かりやすい。
委員	啓発品でエコバッグを作って配布したが、配布物というのも効果的だと思う。
委員	人が集まれるようになったら、またお祭りとかなどで配ればよいと思う。
副委員長	市民意識アンケートは、いかがか。 前は、フォーラムの代わりにアンケートをランダムで配ったが、結構連絡先を書いて頂いたので、これを何回かやっていくと仲間が増えるのではないかと思う。 アンケートに答えるのは嫌だけれども、自分宛に届いたものはやはり気になるので、書いたり、目を通したりするものだ。 3000名で無作為だったが、実施した効果はあったと思う。 コロナ禍が続いて（冊子の）配布もできなくて、フォーラムもできないのであれば、アンケートの実施はあっても良いと思う。
委員	平成26年に自治基本条例ができて、5年経って自治基本条例を「知らない」という人が70%なのか。
副委員長	まだ浸透してないということである。 しかし、活動に参加したいという前向きな意見の方は「必要な活動と感じれば」とか、「時間が合えば」とか、「声がかかれば」という方が結構いた。興味はあるのだと思う。 自分からは行かないが、他の人に声をかけられれば、という感じのよ

	うである。
委員	何かあっても自分からはちょっと面倒くさいな、となってしまう。
事務局	条例があるからやる、ではなくて、何かの活動に興味を持って、実行することを通して、自然と知っていくものである。
副委員長	皆さん知らず知らずのうちに、三者協働でまちづくりをやっている。
委員	町会の活動もそうだし、子ども会もそうだし、ボランティアもそうなのだが、「知らない」ことが多い。
副委員長	知らないから認識もない。三者協働でやるという自治基本条例そのものを知らない方もたくさんいらっしゃるの、自分はそういう活動をしているのだということがまだまだ知られていない。
委員	ボランティアをすることもまちづくりに関わっている、町会をやるのもまちづくりに関わっているのだということを知ってもらいたい。
事務局	みんなが知らず知らずのうちにやっていることが、実は自治基本条例の理念なのだということを、どうやって知ってもらえば良いか。
委員	エコバックを配った時に、ただ配るだけではなくてアンケートを渡し、口頭でも知っていますかって聞いても、みんな知らない方たちばかりだった。
副委員長	自治基本条例（推進委員会）という名前だけをみると、固そうでとっつきにくいイメージになる。 なので、わざわざそこに向けて何かをやろうっていうのは、難しいと思う。
副委員長	以前、焼津市に視察に伺ったときにいただいたパンフレットの裏に、どういう活動が市民活動、まちづくりに参加しているということである、ということが具体的に書いてあった。 「ご近所では挨拶を交わす、地域の活動に参加する、高齢者や子供の見守り、仲間とはボランティア活動、市民活動、公民館の講座などの

	<p>活動、市役所とは選挙で投票する、市のアンケートに答える、審議会等の委員に応募する、公共施設に行ってみる、みんなでは町のイベントに行ってみる、町のイベント運営に関わってみる、防災訓練に参加する、まちづくり市民集会に参加する」</p> <p>これを見ると、自分でも一つや二つはやったことがあるなということが分かり、これはいいなとこの時思った。</p> <p>戸田市でも、具体的に分かりやすい言葉で、誰もがやっっていそうなことを示してあげれば、気付く人がたくさん出てくるのではないかな。</p>
委員	とても良いパンフレットだと思う。これを参考に戸田市でも作るのはいかがでしょうか。
副委員長	選挙には行ったことあるし、イベントにも参加したことあるし、興味がなくてもまちづくりに参加していることに気付ける。
委員	名前はすごく難しいけれど、本当はこういうことなのか！という気付きにつながるし、自分もまちづくりに参加している感じがする。
委員	公共施設などで、たくさんパンフレットや冊子が並んでいるが、そこでパッと目につくような、手に取ってもらいやすいようなものに工夫しながら作ればよい。
委員	A4 三つ折りがすごく良いと思う。色々なサイズや言語で作ったらどうか。町会の掲示版にはポスターを。
副委員長	なるべく簡単に。情報はたくさん入れたいけれど、小さく。
委員	ぱっと見のタイトルは「オールやいづのまちづくり」となっていて、自治基本条例という文言がカッコ書きで小さい字なのがいいなと思う。
副委員長	難しい言葉だと堅苦しいと感じてしまうが、「みんなが主役」というのも、1人1人、参加しているという意識ができるなど。
事務局	例えば子育て応援ブックとか、市が発行しているものにも、こういう文言をいれるのも一案。



副委員長	あちこちに入れて、目にする場面が増えると良い。
委員	街全体で色々なことをやっている。それを一覧表にまとめて、見える化させる。
委員	縦だけじゃなくて、横のつながりが持てるといい。
委員	戸田市に住み続けようという人だったら、興味ある人が多いと思う。そういう人達にどう見せるかというのが、取り込む糸口だと思う。最初は興味が無くても、目についたら「ああ、こういうのもあるのだ、ちょっとやってみようかな」という人がいると思う。引っ越した時に、気軽に参加できるというのが分かれば、興味を持ってくれる気がする。
委員	「気軽に」っていうのは、キーワードだと思う。
委員	ずっとやらなきゃならないって思うと、手が出せない。1回だけでもいいから気軽に。
委員	ずっとそのまま続けなくても、自分がやりたいと思うときに参加できるように。
副委員長	何回も参加すると責任あるところに行かなければいけないと思うと続けられない。
委員	通販でも初回お試しがあって、そのまま定期購入に繋いでいくパターンがすごく多い。初回お試しのような気軽さは大事。
事務局	特性を生かしたアプローチとしては、新住民の方、転入者の人に向けて、転入者へのお知らせのように必ず配るようなものに載せて行って、アプローチしていく。加えて、SNSやホームページを使って、情報を発信していこうという意見が出た。肝心な情報発信の内容はどのような内容か。
副委員長	会議の情報だと少し堅い感じがする。

委員	一つは、イベントやフォーラム、会議に、一度来てみませんか？というお知らせや、その下準備を手伝ってみませんか？というもの。もう一つの情報発信としては、ホームページとかSNSに、活動報告などの情報を発信していく。
委員	パンフレットの内容みたいなことを載せるのも良い。
委員	発信し続けることが基本だと思う。 いつ、どこで誰が目にするか分からない。 また、目につく、目にしやすいようにしなければいけないので。
副委員長	エコバックのデザインも3者で考案した。ここで使ったリスを、今後使おうという話だった。このリスが戸田市の自治基本条例のキャラクターだということを、みんなに覚えてもらえればよい。
副委員長	リスが色々な場面で目くようになると良い。
委員	パンフレットなどもリスで統一感を持たせるのも良い。
委員	トダミちゃんが認識されているように、このリスも認識されれば。
事務局	横の繋がりがあまりないという話だったが、このリスが活用されれば全て条例の理念で繋がっているのが伝わりやすいかもしれない。
委員	横のつながりを持つのは大切だと思う。 委員の私たちも、ここだけみたいな感じになっていて、他のところとのつながり、色々な人たちの話を聞くのもいいと思った。
委員	お互いがどういう活動をしているのかを知ることは、お互いのためにもなる。こっちも広がるし、他の団体の方も広がる。
事務局	これから、この委員会が諮問機関になるとすると、実行する方々を、どうやって広げていくかが大事になる。横のつながりというところが要になってくると思う。

事務局	新しい担い手の発掘というところについては、フォーラムは企画段階から巻き込めると良いという意見があった。
委員	そこで若い人たちにもまちづくりについてどう考えているかを聞けたらいい。若い方に将来に向けて戸田をどうしたら良いか、話を聞きたい。
事務局	先ほど町会で「助けてほしい人はたくさんいるけど、助ける人は担い手が不足している。」という話があったが、若い人の中で、興味がある人、助けたいと思う人と繋がることができれば、相乗効果も期待できる。
委員	助けたいけど、やり方が分からないという人も、情報発信をちゃんと行って、助ける方法が分かれば、助けられる。
委員	あと若い方だけじゃなくて、定年された男性の方も大事だ。女性は、趣味などを通して交流の場があるが、定年された男性の方は家におられる方が多いので、そういう方にも出てきてもらって、意見を聞く。 オリンピックの開会式を見ていたら、子どもから年配の方まで色々な世代の方が出演していたので、大事だと思った。
委員	色々な世代の方から、意見を聞くのは大事だと思う。
委員	担い手の発掘では、色々な団体、例えば青年会議所とか、商工会議所には青年部があり、若手が色々な活動をして活躍をしている場がたくさんある。そういう所に、アプローチをしていけば、もっと人材を発掘できると思う。
委員	スーパーで町会の方にお会いした時、今は町会も集まりが無くて、家にいることが多いこともあり、少し話ただけでもその方は「楽しかった。元気もらえた」と言ってくれました。コロナでずっと家にいて、外であまり交流できない方の中にも、やりたいなと思って下さる方がたくさんいると思うので、ぜひそういう方にも参加してもらいたいと思う。

副委員長	活動の見える化の、協働による課題解決事例はあるのか。
事務局	小さな取り組みでも、より楽しく、よりきれいな町になっているようなことを見える化する。
副委員長	ホームページとか広報とかで、お知らせのようなことか。
事務局	活動を見える化させることによって、こんなことをやっているのだとか、こうやって協働でまちづくりをやっているということを意識付けしていく。 市の計画事業で協働の位置付けというのは、行政の視点になってしまうが、総合振興計画などでも協働の理念は位置づけられているということである。
委員	課題解決事例も、こういう事象があって、こうやって解決したというのを載せるのも良い。普通に暮らしていると分からない。
副委員長	課題があった時に、どうするか。私だったら市役所に行く、町会に相談する。
委員	市役所に相談すると、町会長に言ってください、という対応である。相談は日常生活のちょっと困ったことが多い。まずはゴミの問題。あとは交通、自転車や、街灯が暗いとか。今だと木が生い茂っているだとか、色々な問題があるが、市に言うとみんな町会にくる。
副委員長	漫画パンフレットの方にも、木の枝の剪定を町会の方が助けてくれた事例があった。
委員	市有地であれば市に許可取って切るが、民有地だとその所有者の方に聞いて何人かで脚立持って行って切ったりしている。
副委員長	今日は、大人にも子どもにも、外国の方にも、情報発信をしていくことが大切だという事だった。
委員	外国の方もすごく多いので、簡単な文章が必要。

委員	外国の方は「支え合い」という言葉が通じない人が多い。漫画の中で支え合いとはこういう事である、ということが分かれば、少しは通じるのではないか。
委員	漫画も簡単な日本語と英語で分かり易いと良い。
委員	今、外国の方が固まって住んでいるところがあり、ゴミ捨でのルールを守らない人が多い。
事務局	ルールを知らない、分からない人もいる。ちゃんと伝えることが出来れば、守ってくれることもある。
委員	文化も違うので、知らないからできないのだと思う。
委員	ゴミの分別表の英語、中国語、韓国語、ベトナム語などの外国語版を貼ったら改善した。
副委員長	あとは、新しい方を取り込むには、準備段階から参加していただく。横のつながり、他の団体とのつながりも持つ。
委員	情報発信は、年配の方にも伝わるようにすることが大事。
事務局	張り紙や電光掲示板を活用するという意見もあった。
副委員長	新たな担い手では、市民アンケートで興味があると回答してくれた人や、商工会や青年会議所等の青年部の人へのアプローチ。また、コロナ禍で、家にいらっしゃる高齢者や、引退した（定年退職された）男性の方、気軽に参加できるということが大事。
委員	ボランティアセンターでの会議を通して横のつながりを持つことができて、知らないことを知るのもすごく大事なことだと思った。
委員	知らないからこそ何もできないことが多い。知っていれば手を出せる、知っているだけで応援ができるということは多いので、そういうところの情報を発信していければなと思う。

事務局	これを最終的に答申にしていくときには、いくつか共通したキーワードが出てきたので、それを盛り込んでまとめていく。
一同	ア、イ、ウとなっているが、全部に係る内容なので、無理に分けることもないかと思う。  ▽市長諮問内容 1 のグループディスカッションについては、以上のとおり実施した。  ○市長諮問内容 2 については、播委員をリーダーとして以下の通り実施した。
リーダー	市長諮問内容 2 これまでに実施した取り組み等を踏まえ、条例推進のために推進委員会として主体的に何をおこなっていく必要があるかなど、その在り方についてご意見を伺いたい。
委員	諮問機関でしょうという考えであるが、単純な諮問機関に留まる必要はないのではないかというのが考えである。
委員	当初は、実行機関のイメージであったが、実際に推進委員会に参加してみるとそうではないことに戸惑った。なにもしなくていいのか、それで変わるのか、しかし、徐々に諮問機関的性格であるが、周知・啓発もできるということがわかった。
リーダー	条例に紐づいた附属機関は学識経験者や知見のある方が、諮問をチェックして答申するという附属機関が一般的な諮問機関であるが、形骸化しているものもあるため、そういったものにはなってはダメという議論があり、この推進委員会をつくった。単純に他市の真似をして条例をつくるのではなく、この条例を作ることが自治を作ることであるということで 2, 3 年かけて作り、附属機関も形骸化した附属機関ではなく、単純な附属機関的な意味合いではなく、実行機関的な部分ができる検討をして、市へ提案したが、最終的には通常の附属機関の記載となっていた。現行の附属機関の条例で、実行機関として実施するのは非常に解釈に無理があると感じていた。諮問内容に盛り込まれたということは、自己認識をきちんとしなさいということではないかと考えている。コロナ禍以前は実行機関としての色も強く、啓発活動な

	<p>ども実施していた。今後、戸田市が推進していくのに、我々はどういう立ち位置でいくのか。これからのことを見据えて皆様のご意見をいただきたい。</p>
オブザーバー	<p>諮問機関の諮問、答申の意味がどういうことなのかの議論が必要。例えば3者が仲良くやる方法を考えなさいと言われて、3者が集まる場を作ればいいじゃないかというのは簡単だけど、それが本当にできるのか、どう実現していくのか、という裏付けをつけてはじめて答申の意味がでてくる。あるいは誰かにやってもらうにしても、市の内部でやるなどそういう仕組みが伴わないと、諮問・答申の意味がない。ただ、どう実現していくのか、大きいことをやろうとすると大変であるが、いくつかパターンがあり、全く新しい政策を提案して、実現している推進委員会もあるが、相当な裏付けがあるからこそできる。事務局である協働推進課の中でできることを提案していくのがいいのではないか。実行機関の方はわかりやすいが、いつまで本当に続けていくのかというところもある。焼津市ははっきりして実行機関を後押しする役割と決めているが、戸田市はどうするか、どういった立場をとっていくのかというところである。</p>
委員	<p>焼津市はきちんと明記しているだからできる。戸田市には明記はないので、調査の一環として実行機関的な役割が担えると考えている。</p>
オブザーバー	<p>もう少し焼津市のように、実行機関要素のあるものを作ったつもりであったが、仕組みの検討と過程で出来上がったものが違っていただけに感じた。</p>
リーダー	<p>様々な啓発活動などを実施してきたが、それをやり続けることに意味があるのか。そもそも市のイベントが多く、自治基本条例フォーラムに注力しなくても、既にイベントするには何等かの協働が発生している。そういうことを認知せず、自分たちがしたいフォーラムをただやることに意味があるのか。既存でやっていることをもっと積極的に評価したり、自治基本条例的にみるとこうだと後押しするなど、推進委員会としてできることがあるのではないか。主催で事業をやり続けるのは大変であり、労力の割には効果も少ないと感じた。</p>
オブザーバー	<p>やるなら他がやっていない、例えば若者だけで集めるといったこと</p>

	<p>や、戸田市は転出入が激しいので、新住民向けにやるなど特色を持ってやるなら意味がある。今まで試行錯誤してきたが、基本に戻りできる範囲で仕組みを提案していく、諮問答申型にしていくのがいいのではないかとみている。</p>
リーダー	<p>以前、市長とランチミーティングをした際に、肝いりの施策を伺ったが、行政主導である教育分野などであり、協働的な観点に差異を感じた。もう少し自治基本条例に絡められ、市民みんなが、これは戸田市の放置できない問題だよねっていうものを、自治基本条例の理念に基づいて、三者でプロジェクトチームを作って解決しよう提案するといった、達成や取り組みが分かりやすいものがないと、理念的な話ばかりだけでは、推進は難しいと考える。</p>
事務局	<p>諮問機関的意味を強めるということであれば、第5次総合振興計画策定の際のように、自治基本条例の理念を浸透させるため、自治基本条例推進委員会からいろんな計画に参画していくというのも、その一つである。現に、第5次総合振興計画では、位置づけの明確化もでき、成果としてあった。そういった部分を強めるという意味では、今まで試行錯誤しながら、実行し、効果はある程度あったが、準備の面などで時間が取られてしまい、参画することができないことになってしまうのであれば、諮問機関的な色味を強めて、そういったところに参画していくのも方法である。また、実行機関的な活動については、委員が全く関わらないというわけにいかないで、基本は推進委員会の委員を中心とした有志やアンケートで回答いただいた方などで、実施していくといった部分も検討していただきたい。</p>
事務局	<p>諮問機関として手法について考え、提案する機関という立ち位置もある。諮問1と2は繋がっているので、手法を考える諮問機関として明確化していったらどうかなど、こういった立ち位置やあり方もあるよねというご意見をいただくと、次回の会議での議論に繋がる</p>
委員	<p>手法になってしまうが、ボランティアセンターで活動している人の中には、自治基本条例に則ってやっているのに認識していない方がいる。そのため、そこに啓発をした方がいいし、新型コロナウイルス対策を実施しているお店にステッカーを配布しているように、自治基本条例に基づく活動を実施している団体を、認証やお墨付きをつけてあ</p>



	<p>げるようなことをすれば、各団体が自覚を持つし、ワンランク上の自治基本条例に基づく活動をしようともなるし、考えるかもしれない。今やっている人たちも、もう少し浸透する。自治基本条例に則っているが、自覚がない団体を変えるにはどうしていけばいいか。</p>
オブザーバー	<p>称賛するような制度を作り、見える化する制度を作るという手法や考え方で、活動を後押しするためのアイデアを出す、メイン会議という位置づけも一つである。</p>
委員	<p>他のイベントに乗っかるのがいいかどうか別として、ボランティアセンターでもお金がなく、いろんなイベントに混ざっていく方向であった。もっと後押しするとした方が、負担が少なくいいのではないか。負担もするから啓発活動をさせてくれ、後押しするので、相乗効果のあるイベントに乗っかるのはありではないか。啓発活動なども実行機関がということではあるが、両方やりつつもありではないか。</p>
オブザーバー	<p>後押しであれば協働推進課でできるのではないか。どうしたら後押しになるかを考える。ボランティア活動をした人を称賛するような仕組みもいい。</p>
リーダー	<p>先程、基本軸は諮問で、それにこだわる必要はないというご意見をいただいたが、もう少しご意見をいただけるか。</p>
委員	<p>フォーラムに目に見える効果が薄かったとのことだが、意味がなかったということではないと思う。推進委員会として、やった結果、こういう効果がありました。なので、もっと予算をつけて市でやりなさいと提案するや、効果がないのでやる必要がないですよと報告する。そういう意味で実行するなら良いと考えるが、私のイメージでは提案型の諮問機関である。既に実行している方がたくさんいらっしゃるの、それにプラスして推進委員会がやったところで中々目立った効果が望めないと思う。</p> <p>推進委員会がやるなら、広く高い目線でやっていくべきである。</p> <p>私は、企画は行政がやれというスタンスであるが、諮問機関であれば、きちんとした諮問がなければ効果的な答申ができない。今回のような推進委員会はなにをするかというのではないと考える。しかし、それはそれとして、もうちょっと広い目線で提案していくのが、効率的では</p>

	ないかと考える。
委員	私も基本的にそういう考え方である。他市を見ると、茅ヶ崎市は推進委員会がない。それぞれの課でこれをやりますという形式であり、行政でこれをやろうと決めている。
オブザーバー	茅ヶ崎市は推進委員会がないので、市長が変わったら、頓挫し、活動が停滞した。推進委員会があれば、そういったことはなかったが、せっかくあるのだから、上手く活かして行って少しでも協働を進めることができた。
委員	焼津市のような形式で実施するのであれば、他のやり方はいろいろあるのではないか。
リーダー	一長一短であると感じる。法的な縛りはあるから、継続性があるが、反面、広がりや有機的な動きができない。私も推進委員でありつつ、声がかかり、市民サポート補助金の審理委員として、自治基本条例の観点から「町会・自治会との協働はどうなっているか」や「議員とはどんなコミュニケーションを取れていますか」など質問した。一昨年度は職員研修で講義をした。それも推進委員の立場があるからという継続性の部分がある。こういったことがないと、自治基本条例を作ったメンバーはたくさんいたが、今はSNSでの付き合いぐらいしなくなるというようなことが起きる。
オブザーバー	関係した人たちがたくさんいれば、実行機関となって、この委員会が実行機関を後押しするというイメージをしていたが、知らないうちにいなくなってしまって、実行機関ではなく推進委員会が自らイベントをやることになってしまい、大変な部分がある。実行というのはその人たちを大きな枠にしようと思って2年かけてやっていたのに、残念であった。そのため、実行機関としては難しいと考える。
事務局	先程、繋ぎ留めていくというご意見があったが、この件について横山委員長よりお話しを預かりしているので報告させていただく。なにかしらの繋がりがあった方などと、任期が終わってしまうと、それで関わらなくなってしまうのは、条例の推進にも、協働の浸透にもつながらないので、実行機関を別で作っておき、繋ぎ留めておくことができ

	<p>たら、良いと考えている。アンケートでお答えいただいた方々にもそこに入っていたくなどすれば、実行機関としての負担となる部分は軽減できるのではないか。</p>
リーダー	<p>繋ぎ留めておくというときに、自治基本条例策定時は、条例を作ろうという明確なゴールがあった。また、すごく重要な条例を作ることに携われるというモチベーションや意義もあった。自治基本条例を推進しましょうという非常に曖昧な実行機関を作っても、誰が響くのか疑問である。みんながある程度わかりやすいもので、例えば、焼津市のワールドカフェや若者会議などイメージが付くものの実行機関はやりやすいが、我々が自治基本条例を推進するために実行機関に入ってくださいというのはわかりにくい。そもそも推進委員会が、それを議論している最中である。推進委員会発でもいいが、第五次総合振興計画の一つや肝いりの背策など、我々は直接リーダーシップを取れないので、誰かが主導して欲しい。むしろ、過去の人を引っ張り出すより、問題意識を持った新しい人も動員できるのではないか。</p>
オブザーバー	<p>そういったパターンか役所の内部に向かっていくかである。一般的なパターンは、役所の内部がもう少し市民参加ができるのではないかとということや、協働を進めていった方がいいのではないかとという方向に向かって進んでいく。焼津市は最初に作った人たちが残っていき、核となっているので市民に向けた運動に転換していった。戸田の場合は、市民に向けていくのは厳しいと考える。色々試してみたが、条例ができてからイベントも中々上手くいかなかった、失敗ではないが十分な効果が得られなかった。</p>
事務局	<p>市民、議会、行政のそれぞれが協力し、まちづくりを進めていこうという理念を持って進めてきた、内部的に向かのではなく、みんなが協力してまちづくりを進めていこうという趣旨で作ってきたのではないか。</p>
オブザーバー	<p>今までのイベントは、みんなが頑張ってきたが、それだけで終わってしまっている。市民全体ではなく、どこもやっていないような若者にターゲットを絞るなどしていかないと、全方向でやっていくのは現実的に厳しいと感じる。</p>

リーダー	<p>自治基本条例を策定する際にも、なぜ条例が必要なのかという議論があった。焼津市や新城市は、高齢化や人口減少などから、市民力を高める必要性があり、行政側もそれを認識していた。戸田市の場合は、人口も増加しており、財政的にも豊であり、他市と比べて、差し迫った問題がない。中長期的に見れば、超高齢化社会がすぐにやってくるが、俯瞰的に捉えている人以外の市民感覚として、なぜ必要なのかということもある。必要性を感じるという中に、どこをターゲットとするのか。あまり必要性や危機意識はないけれど、未来のまちづくりのために、若い世代に意図的にターゲットするのは、良いのかもしれない。戸田市の場合、必要性を認識してもらうこと自体が、他市と比べてもチャレンジであると考えている。</p>
事務局	<p>実際に進めていく場合に、推進委員会で行うのか、それとも実行機関があってやっていくのか。推進委員会を作る際には、どうなっていくかわからないので、両方の面を織り込んで作ったが、何年か経過していく中で、それは中々難しいというところを感じている。</p>
リーダー	<p>実行機関は必要になるであろうという話は、当初していたが、委員報酬をどうするかなどと最終的に裁判になった際に、法令の関係などを行政側が気にしていた。実行機関を作るときにはどういう風にやるのか、条例と紐づけるのは難しいのかもしれないが、なにか方法があるのではないかと感じる。</p>
委員	<p>私は諮問機関でいいという考えではある。コロナ禍で今までみたいな三者協働の体制が薄れたと感じる。町会の高齢化が進んだこともあるが、行事などが2年連続で行われないと、またできるかはわからない状況となってしまう。サポートや諮問機関として意見や対策を實際示していく、行政の内部に対しても行っていくことだし、活動としても我々もできるではないか。協働のまちづくりが元に戻せるのか、イベント数やボランティア団体数を比較し、意見を述べていくという諮問機関として自治基本条例推進委員会は大事な役割をもつと考える。</p>
委員	<p>現状やアフターコロナなどを見据えて協働推進課でサポートやバックアップについて検討はしているのか。</p>
事務局	<p>国や県などから通知やガイドライン出た際などには、情報提供をして</p>

	<p>おり、活動したいという人のサポートやバックアップはしているが、高齢者も多く、心配な部分は残るので、完全にできているとは言えない。どこまでを見据えるのか、また、活動するには人がいないとできないというところがあるので、解決の仕方が難しい。町会連合会の会議で、情報提供や意見交換をしていただいたり、市として負担となっている部分に関する、負担軽減を考えているところである。まずは、町会連合会や各町会・自治会と話し合いながら進めていくというところで検討をしている。</p>
オブザーバー	<p>今年の焼津市のテーマは、アフターコロナ時代の地域活動というテーマで、出た意見を市長に報告し、政策を出していくという仕組みを作ったので、少し連動していけている状況である。個別的に考えるのではなく、体系的に、道筋を示してあげるのも仕事かもしれない。</p>
委員	<p>そういういろんなアイデアがまちの中にあるが、我々がそれを実行するのか、後押しするのか。そこが議論のポイントなので、色々な数字が改善されるのは良いことだが、それぞれ考えている部署があるわけだから、その動きに推進委員会としてどういう参画ができるのかというところではないか。</p>
委員	<p>実行は非現実的だと考えるので、やはり諮問を受けて方向性を示していく。協働推進課でできる範囲のものにし、方針や進め方のような枠をつくっていき、サポートしていく感じが良いのではないか。</p>
リーダー	<p>サポート補助金の話だが、減災ナースに関するプレゼンを聞いてすごく良いと感じた。すごく良い考えを持った方々だが、市民活動は始まったばかりなので、そういう人を支援する。サポート補助金の中で、手法やまちづくりの仕組みなどを、こちらから説明することも良いのではないか。例えば、自治基本条例があって、議員の手助けはどう得られるのかや、関係部署はこういう課がありますという話ができるのではないか。</p>
オブザーバー	<p>潜在的に資格や能力のある人たちを、いざという時のために出番を作るといふ、そういう後押しをするということを担当といったことや、今見たい例を取り上げ、研究するといったことを、行政内部で考えてはどうかと提案するのも良いのではないか。</p>

委員	それは推進委員会でできるのか。 他課と調整しなければできないのではないか。
事務局	内容により、調整が必要となるので、単純には出来るといえない。 例えば、地域担当職員制度で、地域の問題を話し合う場があり、笹目コミュニティ協議会に職員を派遣している。防災関係の話が出た時には危機管理防災課職員を派遣して、水害関係の話をした。また、今後、避難所運営委員会をやっていく。自主防災会の方や避難所指定職員が話をする。なお、所管がどこであろうと、調整は必要になるので、ここで論じることではない。
オブザーバー	出来る範囲で、成功体験が大事である。以前、戸田市は市民参加手続きが弱いので、市民参加手続きをルール化した方がいいのではないかと いうことを提案した。例えば、男女共同参画計画のように市民会議における若者の割合をルール化するなどといったものであれば、諮問・答申として現実的ではないか。そういった出来そうなものの提案をするのが良い。
事務局	手法に関しては、諮問内容1の方で議論している。次回、全体でブラッシュアップをするので、その場でご意見いただきたい。
委員	色々伺っていて、実現可能な手が出しやすそうなところからというお話があったが、どういう取り組みだったら参画できるのかという見極めが難しいと感じた。その見極めをしてサポートしていく立場というところが現実的なところなのかなと思う。 先程、アドバイザーとして会議に参加されて、興味深い取り組みをしている団体を知ることができた。こういった情報を共有する仕組みが充実してくると、具体的な話はできるのではないかと考えるが、行政側の情報発信として難しいところでもある。
リーダー	なぜ、私が選ばれたのか。規定などがあるのか。
事務局	明確に自治基本条例推進委員会委員を入れるという規定はないが、協働研修の実施や、協働研修羅針盤という指針を配布し、協働の手法を取り入れるよう職員には啓発している。NPOや市民活動団体の方々

リーダー	<p>には、各々の活動が自治基本条例の理念に基づいているとは考えていないことや、理解していないことがあるので、そういった部分の理解を促進するといった意味を含め、今回、ご参加いただいた。</p> <p>質問する立場だけであったが、市民活動を始めたばかりの方は問題意識がある。また、経験を活かし、なにか自分ができないかといった純粋な気持ちを持っている。始めたばかりで、街づくりの仕組みはわかっていないので、自治基本条例推進委員会として大々的なイベントを実施するよりも、手厚いサポートやルール作りをしていく方がよいのではないかと。</p>
事務局	<p>例えば、戸田市ボランティア・市民活動支援センターの運営委員会には、自治基本条例推進委員会委員が参加し、戸田市ボランティア・市民活動支援センターとの連携を図っている。また、サポート補助金はスタートアップの方が多いので、意識づけなどのため、今回から参加いただいている。既に協働を実践している方に、もう少し後押しや、広げていくという部分は、協働推進課として、考えて実施している。オブザーバーもおっしゃっていたが、他の計画などを見習って、協働のルール化を検討していくことはできるのではないかと考える。また、今までの話をまとめていくと、手法を考え、提案する諮問機関としての立ち位置を明確化した方が良いと感じた。何かやっていくのには、自分たちだけでは、大変である。常に設置しておくのは厳しいので、必要に応じて設置していくのが良いのではないかと。これは、委員長より、事前にお話しをいただいていたが、戸田市ボランティア・市民活動支援センターの登録団体のように、実行機関を登録制度にするのも良いのではないかとという提案もいただいている。</p> <p>なお、諮問機関としての立ち位置は明確化した上で、動きやすい実行機関として分けてしまった方が良いというお考えが強いのか伺いたい。</p>
委員	<p>アンケートの回答で72名の方がアドレスを明記してくださって、そういった方々を放っておくのはもったいない。</p>
事務局	<p>コロナ禍でなければ、イベントや傍聴などのご案内をしたいところであったが、なかなか難しい。今後、議事録をHPに掲載したタイミングで通知するなどして繋ぎ留めていきたい。なお、本日のグループペ</p>

	<p>イスカッションの結果、方向性としては、提案型の諮問機関として、手法の検討等を考えていきたいということであったので、内容をまとめ、次の会議で提示するので、再度検討をいただきたい。</p>
オブザーバー	<p>委員会はシンクタンクだという気持ちを持って欲しい。コロナ禍は新しいことができるチャンスである。</p>
委員	<p>イベントがことごとくなくなっているという話があったが、コロナが終わったら、これをやりたいという話を戸田市ボランティア・市民活動支援センターではたくさんしている。これをやるためにはどうしたらいいか。とにかく、掲示板にやりたいことを挙げて、みんなで出来そうなものを考えて、動きだしている。コミュニティの取り方も新しくなっており、コロナ禍をこのままでは終わらせないという気持ちの方が多。そういう気持ちのかたのバックアップは必要。</p>
事務局	<p>思いの強い方が多いので、一気に動き出すこともあり得る。市では、様々な分野のデジタル化を推進しており、様々なニーズに対応できるよう動き出している。</p>
事務局	<p>▽市長諮問内容2のグループディスカッションについては、以上のとおり実施した。</p> <p>次回の推進委員会にて、それぞれで議論いただきました内容をご報告いただき、更に議論し、ブラッシュアップさせていただく。</p> <p>▽以上のとおり、議題（1）について、協議を終了する。</p> <p>（2）その他について</p> <p>4 事務連絡      次回の会議日程について、令和3年8月下旬から9月上旬を予定している。</p> <p>5 閉会</p>